

令和5年度 安全管理優良受注者 安全管理事例集

目 次

大河津建設 株式会社	P. 1
大高建設 株式会社	P. 2
加賀建設 株式会社	P. 3
株式会社 加賀田組	P. 4
株式会社 加藤組	P. 5
金森建設 株式会社	P. 6
蒲田建設 株式会社	P. 7
株式会社 近藤組	P. 8
株式会社 関組	P. 9
竹腰永井建設 株式会社	P.10
竹沢建設 株式会社	P.11
株式会社 傳刀組	P.12
株式会社 新潟藤田組	P.13
日本海建興 株式会社	P.14
株式会社 北條組	P.15
株式会社 水倉組	P.16
宮口建設 株式会社	P.17

(50 音順)

令和5年 9月11日
北陸地方整備局 企画部

大河津建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理計画の策定

安全衛生委員会において、全国的な運動、当社のヒヤリハットアンケート結果、または現場改善方針を考慮して、毎年度、安全衛生管理計画を策定して、これに基づき毎月、安全衛生月間目標を立て安全活動を図っています。

②労働災害防止の重点実施事項(令和4年度)

1. 作業手順の周知徹底
2. 熱中症予防対策の強化
3. 感染症対策の徹底・拡大防止
4. 通勤・移動の交通事故防止

③安全パトロール結果の情報共有

施工中の現場において、月1回の社内安全パトロールをはじめ各種パトロールを実施していますが、パトロール結果として注意・是正点及び良好な点の他に是正対策報告を含めて全社員に情報提供して、他の現場での安全対策として生かせるようにしています。

2. 現場における具体的な取組事例

①大河津管内河川管理施設維持管理工事における安全管理上の課題

本工事は、大河津出張所管内の堤防除草、河川管理施設の維持・補修や出水時並びに地震時の巡視を行うものの他に、水防演習会場の整備や大河津分水路通水100周年事業対応を行うものである。

その中で堤防除草は、気温が高い時期と重なることと、複数の工区に分かれての作業となり、下請を含めた全作業員の熱中症の健康管理への監視や注意喚起が課題となっていた。

②課題に対して現場で行った安全対策

安全対策として、休憩用テントの設置や熱中症キットの常備の他に次の対策を実施した。

- (1) WBGT計を現場事務所だけでなく、各工区にも配置し、WBGT値を多くの目で確認。
- (2) 「熱中症予防情報メール」の活用し、近隣の観測地でのWBGT値の情報収集
- (3) 監理技術者の「熱中症予防指導員」の研修受講し、それを現場で実践。
- (4) 全社員に消防署より熱中症対策講習(症状、対処法や通報方法)を実施し、対処方法等を習得。



事務所前の WBGT 計



各工区毎設置の WBGT 計



熱中症対策講習

3. その他工夫している点

- ①働き方改革として、「週休2日制工事」への取組として「建設ディレクター」による業務支援の実施
- ②大河津分水路通水100周年PR事業へ参加(ジャンパー・ポロシャツ着用、ツイッターへの投稿)

大高建設 株式会社

1. 会社としての安全重点事項

①安全最優先の理念

当社において最も大切にしている事は『安全』である。安全には近道は無く、日々の活動の積み重ねであり、今後も安全を最優先する企業として絶え間ない努力を続けていき、社一体となった継続的な安全衛生水準の向上を目指す。

②コスモスの構築

当社は2019年4月、建設業労働災害防止協会が推進するコンパクトコスモスを全国第1号で認定を受け、2022年にコスモス認定に移行した。

③コスモスの運用・実施

コスモスは建設事業場のシステム運用の負担を軽減した労働安全マネジメントシステムであり、社全体で効果的・効率的に運用している。



2. 現場等における具体的な取組事例

①吉原緩傾斜堤改良その2他工事における安全管理上の課題

海岸事業は風浪等により工事期間が限られ、厳しい自然環境の施工であり、さらに、海岸管理用通路の改築（かんがい用水を横過するボックスの設置）が非かんがい期間での施工となるため、施工期間の確保が難しく、施工箇所や周辺地域の自然状況を的確に把握した特別なノウハウが必要で、最新技術や経験を駆使し、いかに安全衛生管理の充実を図り、効果的に運用することが課題である。

②課題に対して現場で行った代表的な安全対策

最新の気象情報を即座に作業体制に反映する為、波の影響を受ける施工は、海象状況を気象・海象ポータルサイト(右写真①)にて実施し、上流域での降雨量に影響を受ける施工は、リアルタイム気象情報システム(右写真②)にて実施し、現場状況に合わせた情報を両システムを併用し、効果的に活用した。



写真①気象・海象ポータルサイト



写真②リアルタイム気象情報システム

また、害虫対策、熱中症対策、コロナ対策など様々な工夫、改善を取り入れ実施した。

3. その他工夫している点

①ICT技術活用による安全性及び生産性の飛躍的な向上

地上型レーザースキャナや UAV による写真測量やシングルビーム深淺測量を日常の施工管理業務に活用し、効率化・省力化を図りつつ、作業方法等の見直しに利用する事により施工中の安全性向上にも繋げた。

②現場の見える化による本社との連携強化

施工箇所毎にウェブカメラを設置し、本社・現場・スマートフォンなどによりリアルタイムで悪天候時や施工状況の映像を共有し、本社と現場との連携強化を図った。

③安全パトロールの強化・工夫

通常のお店社安全パトロールに加え、労働安全衛生コンサルタント安全パトロールの実施、女性社員による違った目線での衛生管理パトロールを実施し改善に繋げた。

加賀建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①ヒューマンエラーの防止

無知や教育不足による事故発生を防止するため、外部講師による安全教育等、新しい安全基準や労働安全衛生規則を学ぶ場を提供し、危険行動、未熟による事故発生を防止する。

②安全指示・連絡等の確実な伝達

経験の浅い作業員や、未熟な作業員でも分かり易い安全指示方法を確立するため、写真やマンガ絵等を用いた作業指示を実施し、各作業現場特有の危険箇所を確実に伝達する。

③BCP基本計画に基づき、被害拡大の防止させる

緊急事態が発生した際、顧客（発注者）を始め、全従業員とその家族、取引先従業員の安全を最優先させるため、BCP基本計画に基づき、被害の拡大を防止する。

2. 現場等における具体的な取組事例

①R3加賀拡幅庄函渠その3工事における安全管理上の課題

本工事では、土留・仮締切工に近接して加賀市の水道本管(Φ300)が埋設されており、ウォータージェット併用による鋼矢板圧入を行った際、水道管周辺の路床砂が洗掘され、水道管沈下による損傷が懸念された。（仮設鋼矢板との離隔距離 500 mm程度）

②課題に対して現場で行った安全対策

ウォータージェット併用からアースオーガ併用による鋼矢板圧入工法に変更することで、水道管廻りの洗掘を防止させ、変位を最小限とした。さらに、水道管本体に観測金具（沈下棒）を取付け、施工毎の午前・午後1回ずつ動態観測を実施した。また、鋼矢板引抜時の地中の空洞化による水道管の沈下を防止するため、空洞箇所への充填注入を行った。



3. その他工夫している点

①若手・女性技術者の安全教育

建設業労働災害防止協会により外部講師を招き、若手技術者・女性技術者を含め、安全衛生教育を専門的な角度から分かり易く指導を受ける講習会を開催するなど、安全衛生管理の基礎的な知識・技術を習得するための教育を実施した。



株式会社 加賀田組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

『安全即実行』をスローガンとし、『人命尊重』の基本理念の下に、予知活動を積極的に展開し、完全な安全衛生管理活動の実施を目指す。

②重点方針

1. 重層下請けによる災害・事故防止の為に1次下請け業者の教育を図る。
2. 地下埋設物・架空物・公共物・近隣建築物の公衆災害防止の強化を図る。

③実施事項

1. 現場における労働災害防止福祉対策協議会等に安全部が参加し、労働災害における企業責任の教育指導を実施。
2. 着前検討会議・現場パトロール・安全訓練等における「ライフライン事故防止チェックシート」の内容を確認した、確実な公衆災害防止対策の実施。

2. 現場等における具体的な取組事例

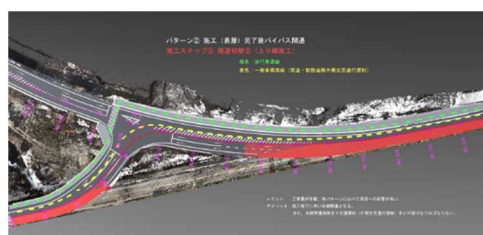
①国道8号鯨波地区舗装工事における安全管理上の課題

本工事は、現道と新設バイパスとの接続を有する舗装工事であった。現道歩道が通学路となっていることや、現道と新設道路との計画高低差が最大で約60cmある条件下で、現道交通に与える影響を最小限にしつつ、安全に現道接続を行う必要があった。そのために、現道接続に際する作業ステップを考案した結果、以下の3点が安全上の課題として挙げられた。

- 1) 現道接続作業ステップを協力会社作業員に周知・共有すること。
- 2) 大幅に変更となる歩行者通路の経路明示と夜間照度の確保。
- 3) 複雑な交通規制の事前周知と、車両進行経路の明示。

②課題に対して現場で行った安全対策

- 1) BIM/CIM データを利用した施工ステップ図を作成することで、現場状況の『見える化』を図り、作業員を始めとする関係者への周知を図った。
- 2) LED トラフィックプロジェクター等の設置により、歩行者通路の明示、照度の確保を行った。
- 3) 事前周知看板・進路予告看板の設置や、2段式自発光矢印板の設置等により道路利用者に対する注意喚起を図った。



【BIM/CIM データを利用した施工ステップ図】



【LED トラフィックプロジェクター】

3. その他工夫している点

- ・外部講師（建設業労働災害防止協会）による安全教育訓練
- ・安全教育の一環として VR を使用した災害事故仮想体験の実施
- ・熱中症対策として冷風機つき作業着や可搬式冷風機の使用

株式会社 加藤組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の構築

安全衛生委員会を設置し、「一人一人が自分の身を守るため何をすべきかよく考えて行動する！」の基本方針に基づいた年間の安全衛生管理活動計画を作成。「労使が一丸となって労働災害のない安全な職場づくりに取り組む」ことを目標としている。

②店社安全パトロールの実施

上記安全衛生計画を基に、社長を始めとした専務・常務等の安全委員が月2回以上の店社安全パトロールを行い、その結果報告等の資料は全社員に周知・情報共有を図っている。

③安全大会の実施

安全大会では、安全衛生活動に貢献した社員を表彰し、また外部講師による安全講話を聴くなど、社員一人一人の安全への意識高揚を図っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①朝日温海道路府屋地区改良他その4工事における安全管理上の課題

本工事は府屋地区で地盤改良工、基石地区で工事用道路工及び仮橋工と工事箇所が点在し、工種也多岐に渡っていることから、事故が発生した際の原因追及や再発防止の対策が課題であった。



府屋地区地盤改良箇所

②課題に対して現場で行った安全対策

工事箇所の点在により、(1)改良箇所、(2)プラント、(3)道路及び仮橋施工箇所、(4)井戸給水ヤード、(5)現場事務所の計5か所に監視カメラを設置し、日々の安全管理に努めた。



基石地区道路及び仮橋施工箇所

3. その他工夫している点

府屋地区の地盤改良において、セメント混合物が官民境界を越えて飛散しないように、飛散防止カーテンシートの設置や、近接する木材加工組合に防火シートを設置するなど地域住民からのトラブルを未然に防ぎ、喜ばれた。

また、基石地区は携帯電話の電波が届かない箇所であったため、Wi-Fiを整備することで日々の連絡や緊急時の連絡、監視カメラの設置が可能となり、安全衛生管理が向上した。

そして熊の出没情報により、熊よけの対策として市販のハンドベルを3か所設置して120mの間を釣り糸で繋ぎ、必ずベルを鳴らしてから現場に入るように周知徹底することで、現場作業員の安全確保に努めた。



飛散防止カーテンシート



Wi-Fi 整備



ハンドベルによる熊よけ対策



熊よけの備
置状況

金森建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生管理基本方針

当社の安全衛生管理基本方針は、「労働安全衛生関係法令をはじめとする諸法令を遵守し、全員参加の安全衛生活動を展開し、労働災害、交通災害、公衆災害、職業性疾病の発生を未然に防止して、安全で健康的な職場作りを目指し、持続可能な開発目的を達成する。」と掲げている。

② 安全衛生活動としての目標

安全衛生委員会を発足し、社内パトロールを強化・充実化することにより労働災害の発生0、交通事故の発生0、公衆災害の発生0を目指し、効果的な安全衛生教育に取り組み、職業性疾病及び生活習慣病の発症防止を目標としている。

③ 社内各部署による重点施策

土木部門の重点施策として、「作業主任者の職務遂行及び安全衛生活動のDX化」を基に、各種作業計画書で選任した作業主任者に従事者を監視させ、職務を遂行するよう指導を行っている。また、甚大災害時の緊急連絡体制確立と気象状況把握等の情報収集を徹底すると同時にDX化に伴う業務の効率化を図り、周知事象等を迅速に水平展開している。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 浦川第2号上流砂防堰堤その11工事における安全管理上の課題

本工事は、日本三大崩れの1つ「稗田山崩れ」直下から土石流を発する金山沢と北アルプスを水源とする流量の多い唐松沢が合流した浦川最上流部に位置し、浦川流域で施工する各業者との避難連絡体制を確実に統括することが最大の課題であった。



現場監視カメラの映像

② 課題に対して現場で行った安全対策

工事関係者連絡協議会の会長職に任命され、土石流センサーや監視カメラを設置し、無線連絡の徹底を図り、気象情報の収集やアラートメール機能を利用し情報共有を行った。月1度、協議会各業者との合同避難訓練を実施し、従事者の安全確保を確認した。



訓練時 LINE による避難完了報告

3. その他工夫している点

現場の従事者が見やすい場所に、ヒヤリハット報告書を掲示し情報共有を促した。また、下請業者への日頃の安全管理を評価し、表彰制度を設け、更なる安全意識の向上を期待するなど工夫を凝らし無事故・無災害で工事を完成させた。



ヒヤリハット報告書掲示



下請業者への安全表彰

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生管理体制の構築

当社の安全衛生管理規定に基づき、安全衛生組織委員会にて安全衛生活動計画を確立し社内パトロール、安全教育訓練、講習会への参加など充実した安全活動に取り組んでいる。

② 社内での情報共有

工事着手前に社内「施工計画会議、工事事前検討会」を実施し、当該現場における様々な危険要因を洗い出し、施工計画作成に反映させている。また、月一の施工報告会においては各現場の良い点、改善点などを社内情報共有し、安全管理の充実に努めている。

③ 社内パトロールの実施

社内パトロールは月に2回実施している。また、年に数回は女性社員のパトロールを実施し、女性視点からの現場環境の改善を図っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 令和3年度白谷砂防堰堤群工事における安全管理上の課題

当該工事箇所は、土石流危険渓流であり神通川水系砂防事務所管内において土石流の発生が最も多い場所である。過去5年での工事期間中の発生回数は16回発生している。そのような危険な場所において、作業中に土石流が発生した場合、現場に従事する全員が安全な場所に瞬時に避難できる体制とすることが一番の重要課題であった。



【土石流発生直後】

② 課題に対して現場で行った安全対策

土石流の危険性が高い現場において、土石流安全対策システム「安全管理サポートシステム」を活用した土石流安全管理体制を図った。また、避難訓練実施回数を増やし、厳しい作業判断基準も設けた。今回実際に有効活用したのは雨雲レーダーアプリの雨雲通知機能であった。雨雲通知機能は土石流発生前にゲリラ豪雨を察知するのに有効であり、迅速な避難が行えた。



【土石流安全対策システム・雨雲通知アプリ】

3. その他工夫している点

着手前の現地状況、地形の把握を行うため危険箇所に入立らずにドローンでの調査、地図アプリの航空写真を確認するなどして安全管理計画に活用している。



【地図アプリ 航空写真による地形確認】

株式会社 近藤組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

事業所で働く人すべての安全と健康の確保をすべてに優先し、より快適な職場環境への改善を継続的に進める。

②安全衛生管理システムの構築

店社で認証取得した建設業労働安全衛生マネジメントシステム（COHSMS）をもとに安全衛生マニュアルを整備し、店社と作業所が一体となってPDCAの一連の過程を定めて継続的な安全衛生活動の水準向上に努めている。

③安全衛生目標

- ・朝礼は全員参加で危険予知活動（運搬業者にも安全指示・注意喚起実施）
- ・墜落、転落災害の防止（梯子、脚立使用時の安全作業確認）
- ・建設機械、作業船舶災害の防止（重機と作業員の接触、挟まれ防止措置確認）

2. 現場等における具体的な取組事例

①R4新潟港（西港地区）航路泊地付帯施設中仕切堤工事における安全管理上の課題

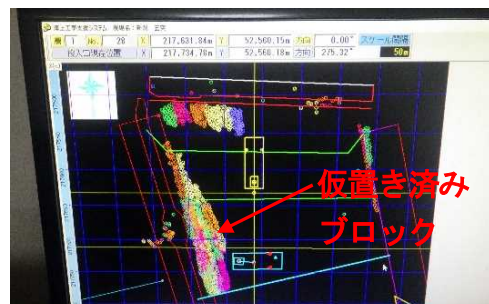
本工事の主工種である、既設消波ブロックの除却・仮置きは、新潟空港に隣接した海上で起重機船を使用する夜間作業であった。夜間による視界不良の中、起重機船の接触災害防止が重要な課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

起工時の3次元測量データと、起重機船搭載の海洋工事支援システムを利用することで、起重機船の現在位置・移動限界ラインを可視化するとともに、水中部へ仮置きしたブロック位置も可視化することで起重機船の接触防止を図ることができた。



夜間海上作業



海上工事支援システム

3. その他工夫している点

- ・中仕切堤内への起重機船進入口は、既設方塊ブロックを一時撤去した幅40mほどの狭小部であったため、端部残置の方塊ブロックに灯標を設置し、夜間の視認性を確保した。
- ・海上作業に従事する作業員全員に、新品の膨張式ライフジャケットを配布することで、万一海中へ転落した時のライフジャケット作動不良防止を図った。

株式会社 関組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の構築

毎月開催される中央安全衛生委員会において全社安全衛生目標の設定・安全パトロールの実施報告・その他安全衛生に関する協議を行い、決定事項はWebにより速やかに各部所及び現場に水平展開している。

②安全衛生活動の徹底

年度毎の安全衛生管理活動計画表を基に、次の事項について徹底して取り組んでいる。

○リスクアセスメントKYの確実な実施 ○技術検討会及び新規入場者教育・安全衛生協議会の内容充実 ○安全施工サイクルの完全実施 ○店社・事業主パトロール、経営層パトロールの実施

③安全大会の実施

毎年全職員と協力会社による安全大会を開催し、外部講師による講演や工事下請表彰、社内表彰、安全の誓いを実施している。

2. 現場等における具体的な取組事例

①敦賀港（鞠山北地区）防波堤（改良）消波外1件工事における安全管理上の課題

本工事における製作工は狭隘な製作ヤード内でラフテレーンクレーンを3台（生コン打設用、転置仮置用、積込運搬用）の使用による重機の接触事故及び冬期の強風を要因とした生コンバケットの振れによる作業員の足場からの転落災害を防止することが課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

生コン打設に使用するラフテレーンクレーンを生コンホッパーアタッチメントを装着したバックホウに変更し、生コン打設の作業範囲を縮小するとともに、各種重機類の作業位置、車両の動線を詳細に計画し各作業が輻輳しないよう計画した。また、生コン打設機械をバックホウにすることで生コンバケットの振れを排除した。



3. その他工夫している点

本工事の製作ヤードは海に直面していたため、製作ヤードからの排水溝にバイオログフィルターを使用した濁水濾過フィルターの設置を行うとともに生分解性水溶性コンクリート型枠剥離剤（レジコンV O-W）を使用する等、製作ヤードからの排水管理を徹底し、周辺海域の環境保全に努めた。

竹腰永井建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 『 ISO 45001 (労働安全衛生) 』 の活用
 - ・ ISO 45001 の取得に独自で取り組み、社内の安全管理に展開していますが、建設現場の安全は安全だけではなく、品質や環境、工程、その他すべての活動が相互に連携して初めて確保されるという事を基本理念としているため、品質及び環境についても ISO を取得し、安全・品質・環境を一体として捉え、社内の活動に生かしています。
- ② 社内パトロールの工夫
 - ・ パトロールは、外部有識者や女性社員の目線を加え、月 3 回を目標に実施しています。
 - ・ 指摘ばかりのパトロールでは煙たがられるだけなので、『癒しのパトロール』と称して、パトロール隊自らが改善活動を行い、現場の人たちとの壁が無くなり会話も弾みます！
- ③ 安全専従者の専任
 - ・ チェックする側の監督や、施工する側の作業員からは独立させ、安全施設の整備等を作業に先行して行う『安全専従者』を専任配置し、日々の安全対策を徹底しています。

2. 現場等における具体的な取組事例

- ① R4 中ノ川霞滝法面対策工事における安全管理上の課題

本工事は、大規模に斜面崩壊した法面対策工事であり、長大な斜面の中に位置するため、施工範囲外から飛び込み入ってくる落石に対する安全対策が課題となりました。
- ② 課題に対して現場で行った安全対策

飛び込んで入ってくる落石は、小石クラスでもスピードと大きな破壊力を持つため、以下の通り、5重の安全対策を行い、作業員への直撃を防ぎました。

【 R4 年度完成 】

【 休憩所への落石 】



【 足場への落石 】



【 過年度の落石被害をもとに落石に対する安全対策を検討・実施 】

- 長大な斜面のため点検にも限界がある
 - ・ 施工範囲外から落石が飛びこんでくる！
- 脆い岩盤のため次々と剥がれ落ちる
 - ・ 四六時中、監視するわけにも行かない！
- 急峻な地形でスピードと大きな破壊力
 - ・ 小石クラスの落石でも命とり！

- ① 落石ネットの設置 (立木を利用してスピードを落とす)
- ② 落石防護柵の設置 (高さ4mで跳ね越す落石を防御)
- ③ 落石防護足場の設置 (強固な足場とネットで最後の砦)
- ④ 落石感知センサー警報システムの設置 (落石を感知し、作業員へダイレクトに知らせる)
- ⑤ ヘルメットハンマーの設置 (ヘルメットを叩いて知らせ、騒音の中でも感知する)



対策①~③



対策④



対策⑤



◀ 落石対策設置状況 ▶

3. その他工夫している点

ICT 技術を活用し、レーザースキャナ搭載型の UAV を用いた測量を行って、巻尺等を用いた危険な計測作業を無くす事により、安全且つ効率的な施工管理を行いました。

■ レーザースキャナ搭載 UAV にて写真測量

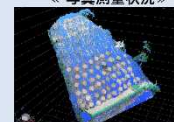
- ・ ロープ足場の必要がない
- ・ PC上で出来形計測確認
- ・ 地上作業で危険度低
- ・ 測定時間 15分
- ・ LS搭載のため更に高精度な出来形計測を実現。



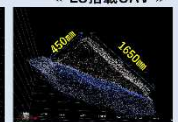
◀ 写真測量状況 ▶



◀ LS搭載 UAV ▶



◀ 点群化された法面 ▶



◀ 出来形計測 ▶

竹沢建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針

人間尊重の精神に立ち返り、実効ある安全衛生活動を着実に展開し、職場で働く人々の安全と健康を確保すると共に、快適な職場づくりに努める。

② 安全衛生管理システムの構築

建設業の特性を加味した労働安全衛生マネジメントシステム『コスモス』を確立し、建設業労働災害防止協会より認定を受け運用している。構築されたシステムでは、果たすべき安全衛生管理の役割を明確にしていると共に、計画 P-実施 D-評価 C-改善 A という一連の過程を定めて継続的に実施して、労働災害の防止を図っている。

③ 安全衛生活動の実施

年間安全衛生管理計画に基づき、安全周知会（年1回4月）や安全大会（年1回6月）、安全衛生委員会（月1回）を開催して周知・確認していると共に、施工検討会の実施により、現場の課題抽出及び検討を店社と作業所が一体となって行っている。店社安全パトロールについては月3回の頻度で実施し、その内1回はDX技術活用の取組みとしてWEBにて抜き打ちで行っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 令和3年度利賀川護岸整備その2工事における安全管理上の課題

本工事は、利賀ダム建設事業に係る利賀川の河道付替に伴う護岸工事で、狭隘な河道内で締切を切り替えながら護岸を整備する工事である。主な施工内容が、締切内での重機と人力による並行作業となるため、重機と作業員との接触防止対策が重要課題であった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

締切設置から護岸整備までの一連の全ての作業に対し、3次元設計データを活用すると共にICT建機を使用して施工する事で、重機と作業員が接近する危険作業を低減した。また、重機に後方270°バックモニター搭載や対人センサー及び安全ポールの設置など、ソフト対策のみならず、2重3重のハード対策を用いた創意工夫のもと、災害防止に取り組んだ。



ICT 建機モニター画面



重機静止状況



作業員がリモコン操作



回転灯で運転手にお知らせ

3. その他工夫している点

本工事で計画実施した複数回に渡るICTに係る講習会において、ICT・DX技術を有効活用した安全衛生に係る講習を多く取り入れるなど、デジタル化が進む建設業界の大きな変化に順応して、積極的に労働災害の防止と安全意識の高揚を図った。

株式会社 傳刀組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針の遵守

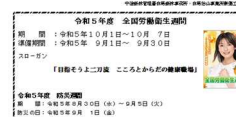
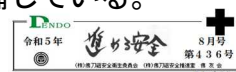
- 1, 当社は、「安全」と「健康」の確保を最優先し、関係法令及び社内規程等を遵守する。
- 2, 統合マネジメントシステムの適切な運用を図る。
- 3, 職務上の役割に応じて、関係者全員の協力協調の下に、安全で快適な職場環境の維持及び継続的な改善に努める。

② 安全衛生管理システム体制の構築

平成 24 年に労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、導入後 11 年を経過した。また、緊急事態発生時現場が混乱しないように緊急時対応マニュアルを作成し配備している。

③ 社内安全誌『進める安全』の発刊

社内安全活動の起点となる、月刊誌『進める安全』を昭和 62 年より発刊している。安全衛生活動・社長の言葉・社内安全パトロール(協力会と合同)の実施、是正・指導の報告・季節毎の便り・表彰について、社内掲示板の役割を併せ持ち、現在(令和 5 年 8 月)で 436 号の発刊に至っている。



2. 現場等における具体的な取組事例

① 箆川 1 号下流砂防堰堤その 2 工事における安全管理上の課題

本工事は、準備工において約 1,500 本の伐採作業があった。一般に伐採作業は労働災害が多い工種である。加えて、現場状況は河川、斜面上(場所によっては斜度 30 度以上)での伐採、集積、積込作業である為、伐採作業時の安全確保が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

河川、斜面上での伐木、集積作業では、土木・解体工事でみられるバックホウ用アタッチメント掴み装置の形状は先端が回転しないため木材をつかむことに不向きであり、当現場では林業用回転グラップル+木寄せウィンチを使用することにより、集材から積込までを効率よく安全に作業することが可能となった。



3. その他工夫している点

- ・ 掘削高 10m を超える掘削で、切り出し部は急斜面のため、ICT 施工を導入した。
- ・ 掘削法面の保護と目視点検ができるよう安全ネットの上に透明シートを張った。



株式会社 新潟藤田組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針の徹底

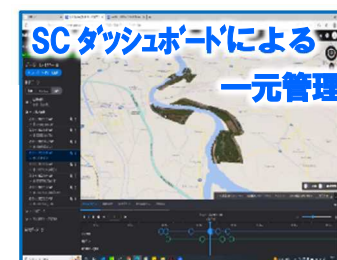
新潟藤田組は「工事現場で働く人の安全と健康を守る為」「公衆の安全を守る為」職員・協力会社・関係部門に至るまで、安全施工サイクルを更に充実前進させ、快適な職場環境の形成を図る。

②社内安全管理体制の構築

安全衛生委員会組織のもと、月一回の安全衛生委員会及び協力業者参加による安全大会を毎年開催すると共に、工事着手前にはリスクアセスメントによる安全管理並びに管理体制の構築を含めた施工検討会を開催している。

③店社安全パトロールの実施

安全・品質管理部による月2回以上の現場パトロールに加え、現場災害防止協議会での土木部長・安全品質管理部長の参加や定期的な本社幹部による安全パトロールの実施など、本社と現場が一丸となって安全管理に努めている。



2. 現場等における具体的な取組事例

①R3・4阿賀野川河道掘削及び樹木伐採工事における安全管理上の課題

本工事は、阿賀野川の洪水被害を防ぐため河道内樹木伐採及び河道掘削を行う工事である。施工箇所は管内4カ所に点在しており、工程上複数箇所を同時に施工しなければならない状況であった。広範囲の現場で緊急時の対応を如何に素早くできるかが課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

3D情報を活用した各現場の一元管理（SCダッシュボード）や、現場でのWebカメラの活用、ダンプ運行管理データを利用した運行状況の確認、各現場とのZoomによるリモートでの打合わせなど、建設DX技術を積極的に活用し、日々の安全活動状況の把握に努めた。



3. その他工夫している点

広範囲な伐木除根工の測量を、UAV測量で対応することで測量時の安全性を大幅に向上させた。また、新型コロナ対策として、安全教育時の三密を避ける工夫（休憩所の大型化と大会議室の利用、映像機器の導入等）を行った。

日本海建興 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①死亡・重大災害（公衆災害含む）の撲滅とゼロ災達成

労働災害ゼロの目標達成に向け、社員の安全意識高揚のため安全強化対策（「労災・是正勧告内容の水平展開」「e-ラーニング等による安全衛生教育」「安全専任者による安全パトロール強化」）等を実施。

②従業員の健康管理の推進

身体的だけでなく精神的な健康度向上も目指し、若手社員に対する助言、指導を行う「メンター制度」の活用を推進。

③働き方改革に基づく過重労働に対する取り組み

時間外労働、休日勤務等による過重労働への取り組みとして、上司と部下との間でコミュニケーションを密に取り「時間外労働申請」「承認」を取り交わすことにより残業時間短縮・休暇取得を推進。

2. 現場等における具体的な取組事例

【全景写真】

①神通川・有沢堤防強化その2工事における安全管理上の課題

本工事は、神通川左岸 10.0k 付近において、既設高水護岸 L=400m の改修・拡幅を行う工事であり、工事区域の河川敷内は緑地公園、サイクリングロードがあり、第三者の散策等が多い箇所である。また、堤防天端には主要地方道が堤防天端を通っており一般車両との接触事故防止や、河川利用者の安全対策を確実に行う必要があった。



②課題に対して現場で行った安全対策

1. 河川敷内では、歩行者通路を工区外に移設し工事箇所への第三者立入禁止措置を行い、河川利用車両と歩行者通路を分離することで第三者同士の接触防止に努めた。
2. 堤防天端では、交通量が多いため点滅灯・反射板付きのバリケードを杭で固定し飛散等による接触事故を防ぎ、工事箇所への立入禁止措置を行った。また、夜間では点滅灯・反射板により視認性を向上させ注意喚起することで一般車両の進入防止を図った。



3. その他工夫している点

堤防天端での盛土作業において、重機は川側旋回を徹底させ作業箇所には誘導員を配置し、一般車両へ注意喚起を行った。また、材料運搬にキャリアダンプ（旋回型）を使用することで狭小部でのバック走行をなくし法肩からの転落防止に取り組んだ。



株式会社 北條組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 労働安全衛生の基本方針

株式会社 北條組は、当社の労働安全衛生理念である「経営基盤の安定化を図るとともに更なる成長を目指す」を踏まえ、安全衛生計画を策定している。

② 安全衛生管理体制の構築

安全衛生計画に基づき、労働安全委員会及び工事部門での幹部会議（月1回）の実施、安全大会の実施（年1回）、店社安全管理者パトロール（月2回）、また女性職員・協力業者を含めた安全パトロール（月1回）も実施している。

③ 安全衛生年間重点目標（令和4年度）

- 1) 墜落・転落事故の防止と対策の徹底
- 2) 不安全行動による災害防止
- 3) 通勤時・現場移動時の交通事故防止
- 4) 健康管理の推進

2. 現場等における具体的な取組事例

① 吉島地区堤防強化その1工事における安全管理上の課題

本工事は、千曲川左岸・長野県上高井郡小布施町吉島地先における、堤防強化工事であり、多数の資材・土砂運搬車両の搬入出があった。荷台をあげたままの走行及びユニック車のブーム格納をしないまま走行することによる架空線・橋桁の損傷事故が懸念された。

② 課題に対して現場で行った安全対策

現場の出入り口部に高さ制限ゲートを設置し、さらにカーブミラーを取り付けて運転手が自ら荷台の状況及び荷姿を確認できるようにした。また小布施橋の橋桁下部に横断幕と三角旗を設置し、接触防止に努めた。



出入口高さ制限ゲート



横断幕・三角旗設置

3. その他工夫している点

現場作業員や資材運搬車の運転手への注意喚起として大型横断幕を作成し、工事関係者の安全意識の高揚に努めた。



大型横断幕設置

株式会社 水倉組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生理念

人命尊重の理念を追求し、「安全」と「健康」を最優先課題とした安全衛生管理活動に取り組んでいます。

②安全衛生管理体制の構築

毎年度、安全衛生管理基本計画を定め、店社パトロールは役員、工事部門、安全管理部門が主体となって実施し、その結果は中央安全衛生委員会において報告を行い全社に水平展開を図り、安全意識の高揚を図っています。

③事故防止の重点実施事項

全社で「墜落・転落災害ゼロ」、「建設機械・クレーン等災害ゼロ」、「埋設物、架空線等上空施設事故ゼロ」、「安全意識の改革と指導・監督の強化」を重点として取り組み、事故防止に努めています。

2. 現場等における具体的な取組事例

①国道49号 姥ヶ山IC（上り）ランプ改良工事における安全管理上の課題

本工事は、姥ヶ山交差点の車線切り替え信号機移設を夜間作業で行う為、近隣住民、周辺企業への騒音振動対策が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

夜間作業時間帯時、騒音振動計を用いて日中の騒音振動データと夜間作業時のデータを比較し、記録の整備を行った。

数値で記録することにより、騒音振動の状況が見えるようになり、騒音振動の抑止につながった。【写真-1】



【写真-1】騒音振動設置状況

3. その他工夫している点

①外部講師による安全衛生教育の実施

建設業労働災害防止協会新潟県支部より外部講師を招き、安全衛生教育を実施した。

当現場の労働災害防止はもとより、今後の現場にも大いに役立つ内容であった。【写真-2】



【写真-2】教育実施状況

②危険度リスクマップを使用した安全KY活動の実施

事故防止対策として現場内の危険箇所を明記した『危険度リスクマップ』を作成し、安全KY活動時に現場従事者に対して危険箇所を分かりやすく周知した。

宮口建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全意識の高揚

・「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」の思いを共有し、安全・安心な職場を目指す。

②品質安全の構築

・安全施工サイクルの実践を継続し、災害発生や品質の劣化を防ぐ。

③働き方改革の推進

・「2+360運動」を自社だけでなく、協力業者にも奨励し、ゆとりある生活環境の実現に努める。

2. 現場等における具体的な取組事例

①片掛工区除雪作業における安全上の課題

・本作業は、一般国道41号における2車線区間の除雪作業で、作業区間には山間部、平地部、市街地部といった様々な地形・地域条件によって構成されている。

・これらに加え、令和2年4月に片掛地先での法面崩落発生により、応急組立橋が設置されスタック車両の増加、スノーシェッド・トンネル、橋梁、路肩狭隘区間等、道路構造が複雑に変化する条件下で安全で確実な作業を行うことが要求される。このため、オペレータへの要注意区間・危険箇所の周知徹底が課題であった。

図1 片掛工区除雪作業ハザードマップ

②課題に対して現場で行った安全対策

・橋梁ジョイント部、投雪禁止箇所、幅員が狭い箇所、冬期工事箇所、苦情があった箇所、片掛応急組立橋等除雪路線内の要注意区間・危険箇所のハザードマップを作成した。

・新規入場者教育時、安全教育訓練時、出勤前のミーティング時に作成したハザードマップを活用して、作業に従事するオペレータに周知することで、現場での要注意・危険箇所の周知徹底と共通認識がなされ、無事故で作業を終えることが出来た。



3. その他工夫している点

・薬剤庫における荷崩れ事故を想定したホイストクレーンの取扱いや合図方法に関する実践訓練実施

・CCTVを活用した監視体制強化によるスタック発生時の迅速な牽引及び誘導（事故・渋滞防止）

・橋梁ジョイント部、市道交差点、応急組立橋等LED発光灯を装着したスノーポールの設置。



写真1, 2 薬剤庫における荷崩れ想定した実践訓練状況



写真3, 4 CCTVを活用した監視体制強化によるスタック車両牽引・誘導